# コンピュータグラフィックス 基礎

第4回GLUTを使ったアプリケーション開発

遠藤結城



# 学習の目標

• GLUT のより高度な機能について理解する

GLUT を用いた対話的なアプリケーションを 作成できるようになる

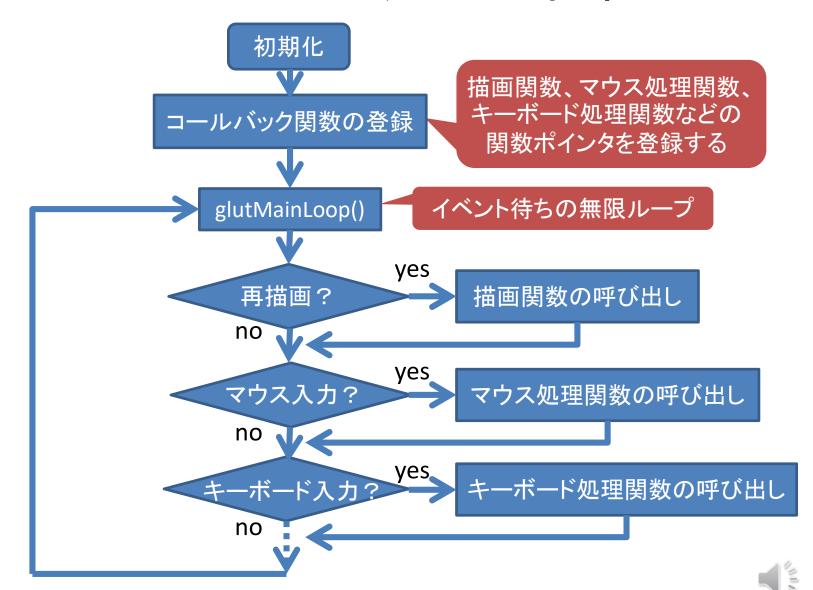
• C++ の初歩的な機能について理解する



# キーボードとマウスイベント



# GLUTのイベント処理の仕組み



# 主なコールバック関数の登録関数

- glutDisplayFunc // 描画処理
- glutReshapFunc // 画面サイズ変更時の処理
- glutKeyboardFunc // キーボード処理
- glutSpecialFunc // 特殊キー押下時の処理
- glutMouseFunc //マウスクリック時の処理
- glutMotionFunc // マウスドラッグ時の処理
- glutTimerFunc // タイマー処理
- その他は http://opengl.jp/glut/section07.html 参照



# glutKeyboardFunc (キーボード処理)

```
void keyboard(unsigned char key, int x, int y){
switch (key) {
  case 'A':
  case 'a':
    // キーボードの[A]が押されたときの処理
  break;
  case 'B':
  case 'b':
    // キーボードの[B]が押されたときの処理
  break:
    // 以下同様の case 文
}
※ x,yの値はキーが押されたときのマウスカーソルの座標
glutKeyboardFunc(keyboard); // 関数ポインタの登録
```



# glutSpecialFunc (特殊キー押下時の処理)

```
void special(int key, int x, int y)
// 中身は keyboard とほぼ同じ
glutSpecialFunc(special); // 関数ポインタの登録
```

引数 key で与えられる特殊キー

- GLUT KEY F1 ~ GLUT KEY F12
- GLUT\_KEY\_LEFT ~ GLUT\_KEY\_DOWN
- GLUT\_KEY\_PAGE\_UP, GLUT\_KEY\_PAGE\_DOWN
- GLUT\_KEY\_HOME, GLUT\_KEY\_END
- GLUT\_KEY\_INSERT

ファンクションキー

カーソルキー

Page Up/Down

Home, End

Insert

※Esc キー、Backspace キー、Delete キーは keyboard 関数で処理

# Shift, Alt, Ctrl キーの押下チェック

```
if(glutGetModifiers() & GLUT_ACTIVE_SHIFT) {
     // Shift キーが押されている
}
if(glutGetModifiers() & GLUT_ACTIVE_ALT) {
     // Alt キーが押されている
}
if(glutGetModifiers() & GLUT_ACTIVE_CTRL) {
     // Ctrl キーが押されている
}
```



# glutMouseFunc (マウスクリック時の処理)

```
void mouse(int button, int state, int x, int y)
// ※ (x,y) はクリックされた位置
// <u>画面の左上が原点、ピクセル数単位</u>
```

glutMouseFunc(mouse); // 関数ポインタの登録

### 引数 button の種類

- GLUT\_LEFT\_BUTTON 左ボタン
- GLUT\_MIDDLE\_BUTTON 中央ボタン (3 ボタンマウスの場合)
- GLUT\_RIGHT\_BUTTON 右ボタン

引数 state の種類

これを区別しないと、ボタンを押して離すまでに同じイベントが2回発生

- GLUT\_DOWN
- GLUT UP

マウスのボタンが押された マウスのボタンが離された



# glutMotionFunc (マウスドラッグ時の処理)

```
void motion(int x, int y)
// ※ (x,y) はクリックされた位置で、
// 画面の左上が原点、ピクセル数単位
glutMotionFunc(motion); // 関数ポインタの登録
```



# 文字列の表示



# 文字列の表示

フォントとサイズの7つの組み合わせから選ぶ

```
GLUT_BITMAP_8_BY_13
GLUT_BITMAP_9_BY_15
GLUT_BITMAP_TIMES_ROMAN_10
GLUT_BITMAP_TIMES_ROMAN_24
GLUT_BITMAP_HELVETICA_10
GLUT_BITMAP_HELVETICA_12
GLUT_BITMAP_HELVETICA_18
```

例

```
glColor3f(1,0,0); // 文字列の色の指定 ※照明計算は無効にする必要あり
char str[64]; // 描画したい文字列
sprintf(str, "(%03f, %03f, %03f)", 10.f, 10.f, 10.f);
glRasterPos3f(10.f, 10.f, 10.f); // 3 次元の描画開始位置
for (unsigned i = 0; str[i] != '¥0'; i++)
glutBitmapCharacter(GLUT_BITMAP_HELVETICA_12, str[i]);
```

# 透視変換・逆透視変換とピッキング処理

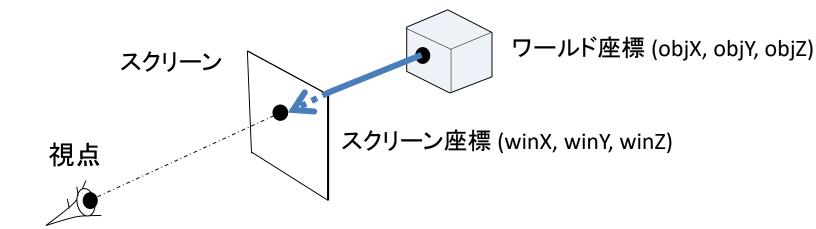


# gluProject

## ワールド座標をスクリーン座標に変換

OpenGL の座標変換を特定の点に関して計算

```
gluProject(objX, objY, objZ, // ワールド座標 model, // モデルビュー行列 proj, // 透視投影行列 view, // ビューポート winX, winY, winZ) // スクリーン座標
```





# gluProject の使用例

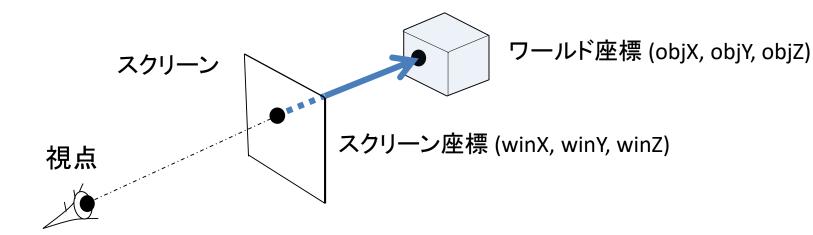
```
// ワールド座標 (x,y,z) について計算
double x = 10, y = 20, z = 30;
double M[16]; // モデルビュー行列の取得
glGetDoublev(GL_MODELVIEW_MATRIX, M);
double P[16]; // 透視投影行列の取得
glGetDoublev(GL_PROJECTION_MATRIX, P);
int V[4]; // ビューポートの情報を取得
qlGetIntegerv(GL_VIEWPORT, V);
double winX, winY, winZ; // スクリーン座標を計算
gluProject(x, y, z, M, P, V, &winX, &winY, &winZ);
```



# gluUnProject

## スクリーン座標をワールド座標に変換 マウスでクリックした点の3次元位置を計算できる

```
gluUnProject(winX, winY, winZ, // スクリーン座標 model, // モデルビュー行列 proj, // 透視投影行列 view, // ビューポート objX, objY, objZ) // ワールド座標
```



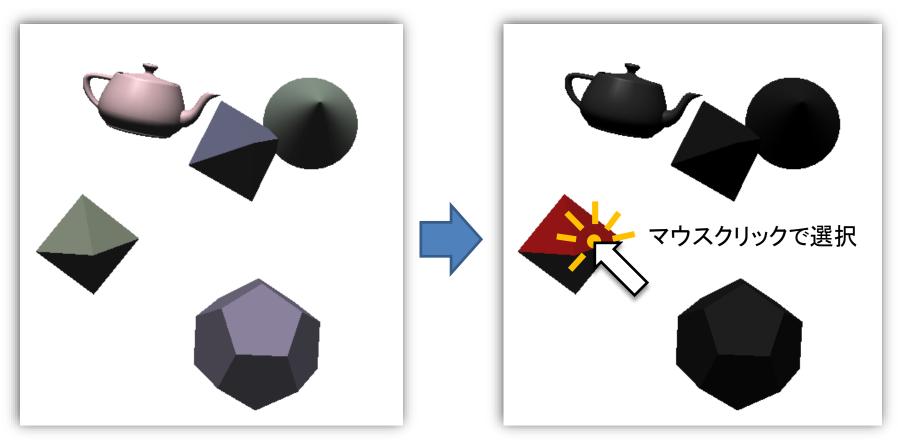


# gluUnProject の使用例

```
double M[16]; // モデルビュー行列の取得
glGetDoublev(GL_MODELVIEW_MATRIX, M);
double P[16]; // 透視投影行列の取得
glGetDoublev(GL_PROJECTION_MATRIX, P);
int V[4]; // ビューポートの情報を取得
glGetIntegerv(GL_VIEWPORT, V);
int x = 30, y = 30; // スクリーン座標 (x, y) について計算
float z; // (x, y) の奥行き値 (デプス) を取得
glReadPixels(x, y, 1, 1, GL_DEPTH_COMPONENT, GL_FLOAT, &z);
double objx, objY, objZ; // ワールド座標を計算
gluUnProject(x, y, z, M, P, V, &objX, &objY, &objZ);
// ※初期化の際に GLUT_DEPTH を指定する必要あり
// glutInitDisplayMode(GLUT_RGB|GLUT_DOUBLE|GLUT_DEPTH);
```

# マウスピッキング

• 画面上の物体をマウスクリックで選択したい



やり方は何通りかある



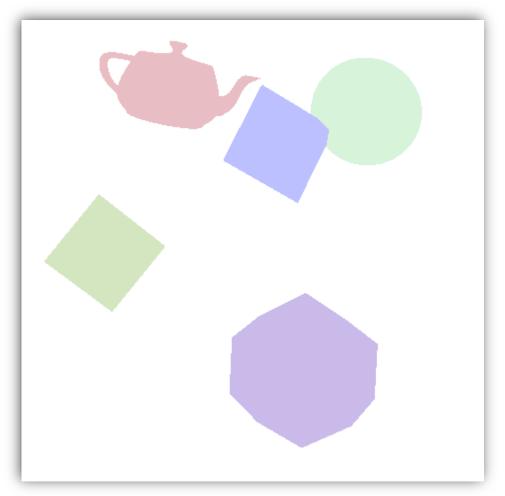
# マウスピッキングの実現方法

- 1. gluProject で物体上の点をスクリーン座標に変換し クリックした点と最も近い点を持つ物体を選ぶ
- 2. gluUnProject でクリックした点のワールド座標を計算し、その座標と最も近い点を持つ物体を選ぶ物体上の点の座標が必要 (GLUT の立体形状では不可)物体の数や、各物体上の点の数が多いと時間がかかる
- OpenGL のセレクションモードを使う 機構が複雑
- 4. 各物体に ID 色を割り当てて描画



# ID色によるマウスピッキングの実現

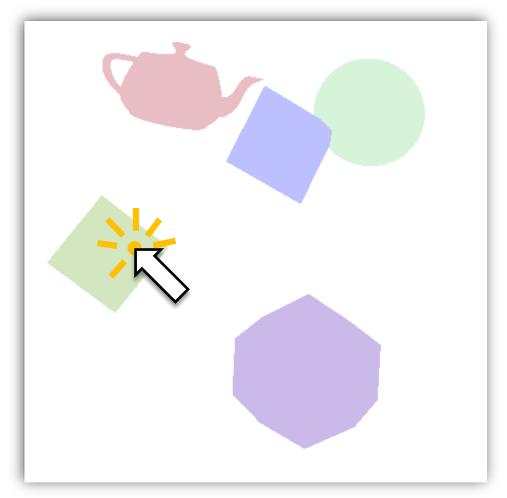
① 物体ごとに異なる色で描画する





## ID色によるマウスピッキングの実現

② クリックした点の色を調べてどの物体か判定





## ID色によるマウスピッキングの実現

```
// モデルビュー行列と透視投影行列はすでにセットされているものとする
int pickObject(int x, int y) {
   glclearColor(1,1,1,1); // 背景色を白に設定
   glclear(GL_COLOR_BUFFER_BIT | GL_DEPTH_BUFFER_BIT);
   glenable(GL_DEPTH_TEST); // デプステストは有効化
   glDisable(GL_LIGHTING); // 照明は無効化
   for (int i=0; i<NUM_OBJECTS; i++) {</pre>
       // Red だけで O から 254 までを区別できる (255 は背景)
       glColor3ub(i, 0, 0); drawObject(i);
   GLubyte c[3]; // 座標(x,y)の色を取得
   glReadPixels(x,y,1,1,GL_RGB,GL_UNSIGNED_BYTE,c);
   return (c[0] == 255) ? -1 : (int)c[0];
} // glutSwapBuffers() がなければ物体は画面には表示されない
```

# C++言語による幾何プログラム の基礎



・ 3 要素の配列を使った表現

```
// 変数の宣言
                                  // 内積
                                  double d =
double a[3], b[3], c[3];
                                    a[0]*b[0] + a[1]*b[1] + a[2]*b[2];
// 初期化
                                 // 外積
a[0] = 1; a[1] = 2; a[2] = 3;
b[0] = 2; b[1] = 3; b[2] = 4;
                                 c[0] = a[1] * b[2] - a[2] * b[1];
                                  c[1] = a[2] * b[0] - a[0] * b[2];
// ベクトルの加算
                                  c[2] = a[0] * b[1] - a[1] * b[0];
c[0] = a[0] + b[0];
                                  // 表示
c[1] = a[1] + b[1];
c[2] = a[2] + b[2];
                                  printf("(%lf,%lf,%lf)", a[0], a[1], a[2]);
```

• これを毎回書くのは面倒...



• 構造体を使った表現

```
struct Vector3d
                                  // 内積
                                  double d =
{ double x, y, z; };
                                   a.x*b.x + a.y*b.y + a.z*b.z;
// 変数の宣言
                                  // 外積
Vector3d a, b, c;
C 言語なら struct Vector3d と書く
                                  c.x = a.y * b.z - a.z * b.y;
// 初期化
                                  c.y = a.z * b.x - a.x * b.z;
a.x = 1; a.y = 2; a.z = 3;
                                  c.z = a.x * b.y - a.y * b.x;
b.x = 2; b.y = 3; b.z = 4;
                                  // 表示
// ベクトルの加算 (省略)
                                  printf("(%lf,%lf,%lf)", a.x, a.y, a.z);
```

・ 配列とあまり変わらない…毎回書きたくない…



関数を使ったら楽になる?

```
// 内積
struct Vector3d
                              double d = Vector3dDot(a, b);
{ double x, y, z; };
// 変数の宣言
                              // 外積
                              c = Vector3dCross(a, b);
Vector3d a, b, c;
// 初期化
                              // 表示
                              Vector3dPrint(a);
Vector3dInit(a, 1, 2, 3);
Vector3dInit(b, 2, 3, 4);
// ベクトルの加算
                            直感的でない...
Vector3dAdd(c, a, b);
                            例えば加算なら c = a + b; と書きたい
```



• C++ の機能を使うと...

より直感的に書ける!

(演算子と演算の内容を自分で定義できる)



# クラスの定義

• C++ はオブジェクト指向型言語。クラスの定義で、コンストラクタ(初期化処理)と、メンバ関数を定義できる

```
class Vector3d {
public:
 double x, y, z; // メンバ変数
 // コンストラクタ...構造体名と同じで返り値のない関数、初期化方法を記述
 Vector3d() {} // 引数のない関数は「デフォルトコンストラクタ」
 Vector3d(double _x, double _y, double _z) { x = _x; y = _y; z = _z; }
 void print() { printf("(%lf,%lf,%lf)", x, y, z); } // メンバ関数のひとつ
 // 他の関数については後述
```



# コンストラクタとメンバ関数

## ・コンストラクタ

という風に呼び出せる。

```
Vector3d(double _x, double _y, double _z) { x = _x; y = _y; z = _z; } を定義しておくと
Vector3d a(1,2,3);
のように初期化ができる。

void print() { printf("(%lf,%lf,%lf)", x, y, z); }
を定義しておくと
a.print();
```



# 演算子のオーバーロード

- 既存の演算子 (+, など) を上書きして新しい処理 を定義できる
- operator というキーワードを使って定義する

```
Vector3d operator+(Vector3d v)
{
    Vector3d tmp;
    tmp.x = x + v.x; tmp.y = y + v.y; tmp.z = z + v.z; // x, y, z はメンバ変数 return tmp; // 新しい構造体を作って返す
}
というメンバ関数を用意すると
    c = a.operator+(b);
という風に呼び出せるが、operator と() は省略できるので
    c = a + b;
と書ける!
```



# 効率性の問題

• 先ほどの定義では変数の余計なコピーが発生する

```
Vector3d operator+(Vector3d v) 1 引数をコピーしている
   Vector3d tmp;
   tmp.x = x + v.x; tmp.y = y + v.y; tmp.z = z + v.z; // x, y, z はメンバ変数
   return tmp; // 新しい構造体を作って返す
               ② 計算結果をあとでコピーする必要がある
参考:c = a + b; を計算するために実際に行われること
  Vector3d tmp1;
  tmp1.x = b.x; tmp1.y = b.y; tmp1.z = b.z; // ① 引数のコピー
  Vector3d tmp2;
  tmp2.x = a.x + tmp1.x; tmp2.y = a.y + tmp1.y; tmp2.z = a.z + tmp1.z;
  c.x = tmp2.x; c.y = tmp2.y; c.z = tmp2.z; // ② 計算結果のコピー
  // ※ コンパイラが賢ければ無駄な処理は省略されるかもしれない
```



# 効率性の問題

「①引数のコピー」は解消できる

Vector3d operator+(Vector3d v)



Vector3d operator+(const Vector3d &v)

- & は「参照 (reference)」を表し、ポインタを使った ときのように値のコピーではなくアドレス渡しになる
- 引数名に const を付けると「引数の値は変更しない」 という意味になりコンパイラが最適化できるようになる
- 「②計算結果のコピー」はこのやり方だとダメ
  - operator+= を実装して c = a; c += b;とすれば計算結果の余計なコピーはなくなる



# 線形代数ライブラリ

- 3次元ベクトルと同様に、
  - 2 次元ベクトル
  - 4 次元ベクトル
  - 2x2 行列
  - 3x3 行列
  - 4x4 行列

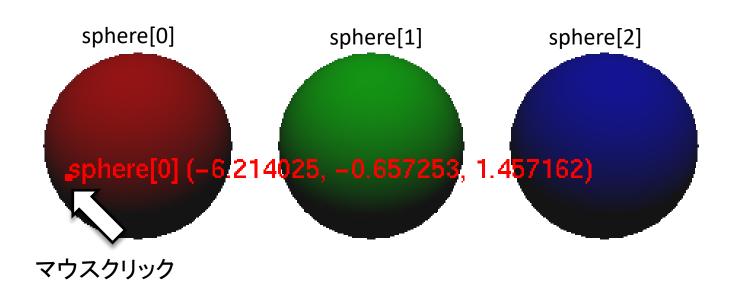
などの演算やそれらとの相互の演算も用意すると 便利

- 世の中にはたくさんの線形代数ライブラリがある
  - 有名な例: Eigen <a href="http://eigen.tuxfamily.org/">http://eigen.tuxfamily.org/</a>



# 課題の概要 (詳しくは課題用資料参照)

- 複数の物体を表示して、クリックした物体の識別と、クリックした点の座標を取得する
  - オプションとして、物体が空間を動き回るようにし、クリック することで得点が得られるゲームを作成





コンピュータグラフィックス基礎 第4回 課題

#### 課題の目標

- ·C++の初歩的な機能について理解する
- ・GLUT を用いた対話的なアプリケーションを作成できるようになる

#### 課題の内容

(1) サンプルコード vector3d\_example.cpp で提供されている Vector3d クラスに対して、減算を表す演算子(-)の処理と、減算代入を表す演算子(-=)の処理を追加しなさい。

また、 $\vec{a} = (2,3,4)$ ,  $\vec{b} = (3,5,-2)$ ,  $\vec{c} = (2,-1,1)$  のときに、次のベクトル計算を行う 処理を main 関数に記述し、その結果を出力しなさい。×は外積を、・は内積を表すものとする。

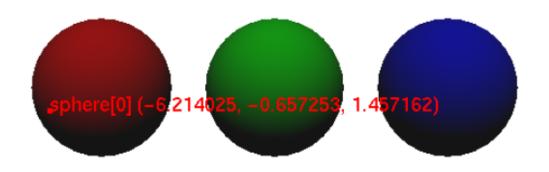
- (a)  $\vec{a} \vec{b}$  (b)  $3\vec{a} 2\vec{b}$  (c)  $\vec{a} \cdot \vec{b}$
- (d)  $\vec{a} \times \vec{b}$  の単位ベクトル (e)  $(\vec{a} + 2\vec{b}) \times \vec{c}$



(2) サンプルプログラムコード kadai04\_pick\_sphere.cpp を実行すると、下図のように 3 つの球体が表示される。



★記号で示した箇所を埋めて、プログラムを完成させると、下図のようにマウスクリックで選択した球体の ID と、クリックした位置の座標値が画面に描画される。必要なコードを追加してプログラムを完成させなさい。











#### **(**発展課題:オプション**)**

課題 3 で学習した内容を活用し、球体が空間を動き回ったり、視点の位置がキーボードで変わるようにし、球体をクリックできた場合に得点が加算されるようなゲームアプリケーションを作りなさい。

#### 提出するレポートに含めるもの

上記の課題のプログラムコードと、実行結果のウィンドウをキャプチャした図。課題(1),(2)のプログラムコードについては、自分で作成した部分と、元からある部分が区別できるように示すこと。

発展課題で動きのあるものは、動いている様子が分かるように、複数のキャプチャ画像を含めること。 mp4 やアニメーション GIF などの動画ファイルを作成できる場合は、動画を含めること。

